

- パテックス フェルビナスター V
- パテックス フェルビナスター Aシップ

### 【使用上の注意】

#### 使用上の注意

#### してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

1. 次の人は使用しないで下さい。
  - (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状(発疹・発赤、かゆみ、かぶれ等)を起こしたことがある人
  - (2) ぜんそくを起こしたことがある人
  - (3) 妊婦又は妊娠していると思われる人
  - (4) 15歳未満の小児
2. 次の部位には使用しないで下さい。
  - (1) 目の周囲、粘膜等
  - (2) しっしん、かぶれ、傷口
  - (3) みずむし・たむし等又は化膿している患部
3. 連続して2週間以上使用しないで下さい。



#### 相談すること

1. 次の人は使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。
  - (1) 医師の治療を受けている人
  - (2) 薬や化粧品等によりアレルギー症状を起こしたことがある人
2. 使用后、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに使用を中止し、この外箱を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

### 【解 説】

1.
  - (1) 共通事項解説〔1〕参照
  - (2) 医療用非ステロイド性消炎鎮痛外用剤においてぜんそく発作の注意が記載されています。本剤には非ステロイド性消炎鎮痛剤のフェルビナクが配合されているので、ぜんそく発作の既往歴のある人は使用しないよう注意が必要です。
  - (3) 本剤は妊婦又は妊娠している可能性のある人での安全性が確立していないため使用しないこととしています。
  - (4) 本剤は小児への使用経験が少なく、安全性が確立していないため、15歳未満の小児では使用しないこととしています。
2.
  - (1) (2)これらの部位に本剤を使用すると、強い刺激感や痛みがあらわれたり、症状が悪化するおそれがあります。
  - (3) 本剤はみずむし・たむし等の白癬症や化膿など感染症に対しては無効であり、かえって症状が悪化するおそれがあります。
3. 共通事項解説〔3〕参照
1.
  - (1) 共通事項解説〔4〕参照
  - (2) 共通事項解説〔7〕参照
2. 例示したような副作用症状が起こる可能性があります。これらの症状があらわれた場合には、症状の増悪や重篤な副作用への移行を未然に防ぐため、直ちに使用を中止し、使用している薬剤の成分等がわかる外箱を持参の上、専門家に相談する必要があります。

→次のページに続く

- パテックス フェルビナスター V
- パテックス フェルビナスター Aシップ

### 【使用上の注意】

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ、はれ、ヒリヒリ感、かぶれ <sup>*1</sup> 、水疱 <sup>*1</sup> かぶれ等 <sup>*2</sup>

※1：パテックス フェルビナスター V

※2：パテックス フェルビナスター Aシップ

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	使用后すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。

- 5～6日間使用しても症状がよくなる場合は使用を中止し、この外箱を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

### 【使用法に関連する注意】

- 使用法を厳守して下さい。
- 本剤は、痛みやはれ等の原因になっている病気を治療するのではなく、痛みやはれ等の症状のみを治療する薬剤なので、症状がある場合だけ使用して下さい。
- 汗をかいたり、患部がぬれている時は、よく拭きとってから使用して下さい。
- 皮膚の弱い人は、使用前に腕の内側の皮膚の弱い箇所に、1～2cm角の薄片を目安として半日以上貼り、発疹・発赤、かゆみ、かぶれ等の症状が起きないことを確かめてから使用して下さい。

### 【保管及び取扱い上の注意】

- 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。
- 小児の手の届かない所に保管して下さい。
- 他の容器に入れ替えないで下さい。(誤用の原因になったり品質が変わります)
- 品質保持のため、開封後の未使用分は袋に入れ、袋のチャックをきちんと閉めて保管して下さい。
- 表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

### 【解 説】

→2.の続き

※1：有効成分フェルビナク濃度が医療用医薬品と同じであることから、低濃度のフェルビナク配合鎮痛消炎貼付剤で懸念される副作用(発疹・発赤、かゆみ、はれ、ヒリヒリ感、かぶれ)に加え、医療用医薬品の副作用に含まれている水疱も記載しています。

下記のような重篤な症状があらわれたら、直ちに使用を中止し、医師の診療を受ける必要があります。

- ショック(アナフィラキシー)  
重篤な症状の解説[1]参照

- 5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合は、他の疾患や合併症も考えられるので、使用を中止して専門家に相談する必要があります。

- 共通事項解説[8]参照
- 本剤は痛みやはれ等の対症療法に使う薬剤です。これらの症状の原因が骨や関節等の障害にある場合は根本的な治療が必要です。
- 汗などで貼付部位がぬれていると、皮膚への粘着力が弱まり、はがれやすくなります。
- 皮膚の弱い人では、発疹・発赤、かゆみ等の症状が起こりやすいので、本剤の使用による過敏症状を未然に防ぐため、使用前に確認することをお勧めしています。
- 共通事項解説[11]参照
- 共通事項解説[12]参照
- 共通事項解説[13]参照
- 本剤は外気に触れて乾燥すると粘着力が悪くなり、品質も劣化しますので、品質を保持するため、開封後の保管方法を記載しています。
- 共通事項解説[17]参照